



幼年消防クラブ結団式



5月10日 弓削保育所



5月11日 岩城保育所



上島町内の各保育所において、令和4年度幼年消防クラブ結団式が行われました。園児達は、火事の恐ろしさや避難時の心がけについて学んだ後、消防車の見学を行いました。最後に記念撮影を行ない、園児達は誓いの言葉を大きな声で約束しました。これから1年間、火災予防について学び、防火パレードなどの啓発活動にも取り組みます。



5月13日 生名保育所

令和4年度危険物取扱者試験および消防設備士試験のご案内

今年度も危険物取扱者試験と消防設備士試験が実施されます。試験会場や受験方法などの詳細については、下記の連絡先に電話をするかホームページにアクセスして確認して下さい。

また、上島町消防本部では、受験に関する資料と願書を無料配布しています。

一般財団法人消防試験研究センター

☎ 089-932-8808 (愛媛県支部)

URL <https://www.shoboshiken.or.jp/branch/37ehime/>

令和4年4月出動件数

地区	弓削	生名	岩城	魚島	その他	合計	R4累計
火災	0	0	0	0	0	0	1
救急	20	7	4	4	0	35	147

(令和4年4月30日現在)

上島町消防本部・消防署
消防防災課

☎ 77-4118
☎ 77-3166

救急救命士誕生



檀上 寛行 消防士長

上島町消防本部に新たな救急救命士が誕生したので紹介します。

【今後の抱負】

令和3年9月から約7カ月間の救急救命九州研修所での研修を終了し、救急救命士国家試験に合格しました。研修中は救急救命士に必要な医学や処置を学び、新たな技術を取得することができました。今後は、現場経験を重ねながら、先輩救命士から学び、観察力や判断力の向上に取り組んで参ります。また、傷病者や家族・関係者の方が安心できるような声掛け心がけ、町民の皆さまから信頼される救命士を目指す所存です。



カンキツ類には細菌やカビにより発生する病気がいくつかあります。その中でも、黒点病という病気は、発生頻度が高く、外観（見栄え）が悪くなるため、販売目的で生産されている農家にとって重要な病気となっています。今回は、黒点病の生態と防ぎ方について解説します。

1 黒点病の症状

一般的な症状は、針で突いたほどの黒点が果実表面に発生します（写真1参照）。感染時期や菌密度により、かさぶた状や線状に発生することがあります。葉、枝、果実に発生しますが、果実での発生が問題となります。発生すると外観の見栄えが悪くなりますが、腐敗や味が悪くなることはありません。発病程度が高いと商品価値が

2 発生原因

病原菌はカンキツの枯枝上に胞子を作り、雨により胞子が溶け出して果実に感染します。胞子は、水にしか溶け出さないため、降雨がないと感染はしません。また、黒点症状は、カンキツの皮にできた防御組織で品種による発病差があります。ほとんどのカンキツ品種に発生しますが、「せとか」「はれひめ」は発病しやすい品種です。また、果実に発生した病斑からは伝染しません。主要な感染時期は、6月～9月中旬ごろで、枯れ枝の発生と降雨、高温が発病条件となります。特に日当たりの悪い園地や枝が密生して果実上の水が乾きにくい条件では、さ



写真1 黒点病の黒点症状

著しく低下し、外観を重視する青果物流通の評価を下げる原因となります。

3 防除対策

らに発病しやすくなります。

黒点病の黒点症状は、一度で出来てしまうと治癒することはありません。感染させないように予防的な対策が必要です。

1 枯枝の除去

発生源となる枯枝を樹上から完全に除ければ黒点病は発生しませんが、枯枝は次々としてくるので完全に除けることはできません。大きな枯枝だけでも除去しましょう。

2 枯枝の出来にくい園地管理

枯枝ができやすい条件は、日当たりが悪くなるとできやすくなります。園地の日当たりの改善や老木の改植、樹内まで太陽光が入るように整枝・剪定、間伐などを行うことで枯枝の発生を減らすことができます。

3 農薬による防除

感染が増加する6月ごろから農薬による予防散布が有効で、発病する前からの散布が重要です。農薬の種類により効果の持続する期間や耐雨条件が異なります（表1参照）。梅雨期を重点に秋口まで定期的な農薬散布が必要ですが、自家用などあまり外観を気にしない場合は、梅雨入り前の1回散布で重

表1 黒点病の主要農薬

農薬名	倍数	薬材残効※	使用基準（かんきつ）
ジマンドイセン水和剤	600倍	◎	収穫前90日まで4回以内
ペンコゼブ水和剤	600倍	◎	収穫前90日まで4回以内
エムダイファー水和剤	600倍	○	収穫前90日まで4回以内
ナリアWDG	2500倍	△	収穫前14日まで3回以内
ファンタジスタ顆粒水溶剤	4000倍	△	収穫前14日まで3回以内
ナティーボフロアブル	1500倍	△	収穫前日まで3回以内

※ ◎ 降雨250mm：1か月 ○ 降雨200mm：1か月 △ 降雨150mm：20日

症果の発生は防ぐことができます。また、ジマンドイセン、ペンコゼブ、エムダイファーは体質によりかぶれを発症することがあり、収穫前日数が長いので、使用するときには注意をしてください。農薬に加えることで残効性が増す展着剤（アピオンE）もあるので有効活用しましょう。